

(別紙) 応募用紙「土木広報大賞 2021」

団体名：四国防災八十八話普及・啓発研究会			
応募部門 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> イベント部門	<input type="checkbox"/> 映像・メディア部門	<input checked="" type="checkbox"/> 広報ツール・アイテム部門
	<input checked="" type="checkbox"/> 教育・教材部門	<input type="checkbox"/> 商業広告部門	<input type="checkbox"/> 企画部門

土木広報作品名：防災の教訓伝承～先人の知恵や工夫に学ぶ『四国防災八十八話マップ』～

■「四国防災八十八話マップ」の概要

自然災害の被害軽減のために重要な防災活動の一つは、「地域で長く伝えられてきた防災の教訓」を今に活かすことである。しかし、そうした教訓の伝承は大変難しく、多くの被災地で苦勞している。申請者らは、四国でとりまとめられた88の災害に関する教訓¹⁾をマップ上に表し(図1)、片面には徳島の教訓の一つずつ、親しみのあるイラストで表現した防災教育・啓発用のマップを作成した(図2)。本マップのねらいは、地域に長く伝承されてきた災害に対する生活の知恵や教訓を知ることで、「防災をもっと学びたい」、「伝承地に行ってみよう」という主体的な防災の学びとなることを促すことである。実際にマップを使った学習会や伝承地ツアーを行い(図3)、年齢や防災への関心度によらず、参加者の学習意欲は高められることを明らかにしている。またもっと学びたい人のために、各伝承地はGoogleマップや解説書にも紐づけされている(図4)。なお本マップは、(一社)四国防災協会の協賛の下、専門家、行政、教育委員会、マスコミなど産官学からなる四国防災八十八話普及・啓発研究会が企画し、徳島大学によって2021.3に発行された。

■「四国防災八十八話マップ」の特徴

1. 先人の堰や堤防の建設といった土木事業に関する教訓から、洪水や地震など災害に備えた暮らしの知恵や工夫などが、世代や防災への関心度に関係なく、誰もがわかるようにイラストで表わされている。
2. 江戸～平成までの間の災害を対象にしており、四国で起こる災害の種類を全て網羅している。
3. 一枚のマップにまとめているので、地理と災害といった関係性が俯瞰的に理解できる。
4. 今ある堤防や取水堰などの土木構造物が先人の大変な苦勞の上に建設されたことが紹介されている



B2 (515 × 728mm), 1枚 30.5g, 両面カラー, 八折

図1 四国防災八十八話マップの表裏面



図2 徳島の災害の教訓をイラストで表現(表面)



図3 マップを活用した色々な学習・啓発の事例



図4 主体的な学びのためのデジタル解説書とマップ

■マップを活用した防災啓発活動の実績

- ① 配布先と配布数：四国4県内「道の駅」15カ所，博物・図書館125カ所，県内小中学校40校等に8000部
- ② マスメディア：徳島県域のテレビ，AM・FMラジオ，新聞などでマップ発行の紹介，学習の様子などが計20回紹介される。NHKでは全国放送のTV，ラジオ，雑誌(ステラ)でも紹介されたが，TV「くらし☆解説」(視聴率2%)の特集『災害伝承』で紹介されたときには，特に大きな反響が視聴者から寄せられた。
- ③ 防災展：タイトル「吉野川の洪水警鐘高地蔵さん(R2.8~10)」(マップ発行前のイベント)。
- ④ 防災学習・啓発：徳島県内の幼稚園，小中学校，県立防災センター，イオンなど計22回(約1000人)
- ⑤ オンラインツアー：実際の伝承地を巡るツアー動画を作成，クイズに答えると景品を贈呈
- ⑥ デジタルスタンプラリー：マップを持ちながら県内の29の伝承地を巡り，デジタルスタンプを集める一般向け啓発行事(県主催)が10月に行われる。多数の県民が楽しみながら地域防災を学ぶ機会となる。

☆以上の啓発活動の取り組みは動画に記録(YoutubeやHP(<https://shikokubousai88wa-t.amebaownd.com/pages/3722465/blog>))されており，誰でも閲覧できる。実際に動画をみた地域の防災士や元小学校教員が自らの防災活動の中でマップを使った学習を行っている。またNHKはマップで防災啓発番組を制作，行政関係者は⑥のようなツアーを企画するようになった。さらに観光ツーリズムや料理研究家といった異業種からの協力依頼もあり，コロナ禍ではあるが，想定していた以上に多くの人々がそれぞれの方法でマップを使った活動を始めつつある。

■マップの広報効果の検証

①「もっと知りたい」という意欲を高めることができるのか？

小中学校の教職員や歴史，観光，メディア関係者数名に試作段階のマップを見てもらったところ，「防災の専門知識がないので教え方がわからない」「具体的目標や指導案がないと学校教育の中では普及しない」「どこからどのようにマップを見ればよいかわからない」といった問題を指摘する声があった²⁾。そこで，思わず知りたくなる「12のミッション」，主体的な学びを促す「学び方」の事例をマップ内やHPで紹介することとした。また，その「学び方」をオンライン講習で実践し，学習目標の到達度を測ったところ，「災害や教訓についての興味関心が高まる(学習者の100%)」「新たな気づきがあった(同80%)」「現地に行ってみたくなった(同60%)」と概ね期待していた結果を得ることができた²⁾。さらに，マップでの学びによって，「興味関心」「関係ある」「満足」を感じ，さらに「勉強したい」と思った人は実際に，「現地に行ってみよう」という意欲が高められていたことがわかった(図5)。

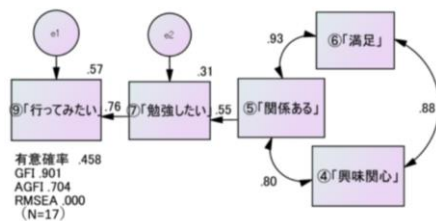


図5 マップを活用した学習におけるパス図

②幼児であっても，楽しく防災を学ぶきっかけになったのか？ 伝承や教訓は伝わったのか？

幼児5才，22名にマップを活用した学習会を実施し，学習目標が達成されたか？について保護者アンケートを行った。その結果，「幼児全員が楽しく防災を学び」「児童の半数は，学んだ教訓や言い伝えを1つ以上具体的に保護者に伝えていた」と期待以上の効果を得ることができた³⁾。さらに，保護者に伝えやすいイラストの特性についても把握することができた(図6)。同様に成人を対象にした学習会でもアンケート結果から，伝承や教訓が伝わったことは確認できており，今後は香川，愛媛，高知編と順次作成し，地域防災の普及啓発を進めていく予定である。



図6 幼児の記憶に残った防災イラスト

1) 国土交通省四国地方整備局(2008)四国防災八十八話，2) 松重ら(2021)イラストから見る四国防災八十八話マップの学び方について，防災教育学会，3) 松重ら(2021)四国防災八十八話イラストマップで学ぶ防災学習～幼児を対象にした事例より～，土木学会四国支部(優秀発表賞)